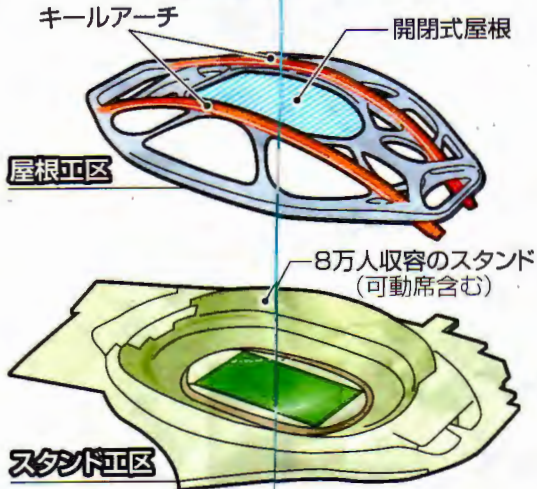


巨大アーチ 開閉式屋根 難工事

新国立競技場の技術的課題



2020年東京五輪の主会場となる新国立競技場の建設には、技術的難題が山積している。独創的な外観デザインを支える巨大なアーチ構造や開閉式屋根(遮音装置)などはいずれも世界初の難工事という。事業主体の日本スポーツ振興センター(JSC)は「ノウハウを生かしたい」と、実施設計の段階で施工会社を選ぶことを決めたが、設計を修正しない限り、建設費は膨らみそうだ。(森本智之)＝核心③面

設計段階から技術力懸念

JSCは八月十八日、工区をスタンド部分と屋根部分に分け、施工会社選定をプロポーザル(提案)方式で行うと公示した。技術提案を審査し、十月中に決定。選ばれた会社は八月に始まった実施設計の検討に加わってとりまとめる。工事請負契約は、来年六月をめぐりにあらためて結ぶ。

設計段階から施工会社を選ぶのは異例だ。背景には、高い技術力を持つ施工会社の協力なしには計画通りの競技場が建てられない、という危機感がある。建設のネックになっているのは、幅三百七十メートルの巨大な「キールアーチ」や、サッカーグラウンド二面分の一万五千平方メートルに及ぶ開閉式の屋根、八万人収容のスタンド、競技種目やコンサートなどに応じて移動する可動席などだ。JSC

施工会社選定前倒し

「ゼネコンの力があれば造れると思うがコストは跳ね上がるだろう」と話す。新競技場の建設費は、一時は三千億円と見積もられたが、規模を縮小するなど

JSC新国立競技場設置本部の阿部英樹施設部長は「設計者だけで無理にやれば工期が延びたり、工事請負契約の段階で入札不調となるリスクもある。もともと『日本の技術力を世界に示す』としてザハ・ハディドさんのデザインは選ばれており、技術的なチャレンジは当然。課題は必ずクリアできる」と話している。

新国立競技場の計画見直しについて、JSC側は「招致段階で示した『国際公約』に反する」と反発してきた。だが、〇八年の北京五輪では経費節減のため、主会場「鳥の巣」の開閉式屋根を取りやめるなど、招致段階の計画を後に見直した例は過去にある。今回の東京五輪でも建築費の高騰などを理由に、国立を除く会場計画の見直しを東京都が進めている。

計画変更 IOCも理解

(IOC)は行動計画アシエタビューに「将来の日本のインフラで、既存施設を最大限活用し環境への影響を弱める努力をすること」を求めている。これまでもこうした考えに沿って見直しに理解を示してきたといえる。

五輪の主会場として使うには六万人の収容人員など条件があるが、八万人もの規模や、開閉式屋根などは必要ない。この問題については、IOCのトーマス・バッハ会長も十日までの共同通信のイン

「新国立」かさむ建設費

Cは「規模や構造の複雑さなどで過去に例がない」と説明。建設会社向けの資料でも「難易度が高く、十分な検討を行い、課題を解決する」必要を指摘した。

幕張メッセや東京国際フォーラムの構造設計を担当し、新競技場のデザインコンペにも参加した構造設計家の渡辺邦夫さんは「新競技場の形は構造的には全く非合理だ。それを実現しようとしていろいろな所に無理が生じている」と指摘。「ゼネコンの力があれば造れると思うがコストは跳ね上がるだろう」と話す。



中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211

オナマエのナノ、解明。

決定版
なるほど!
オナマエ堂

フジテレビ系列全国28局ネット
制作著作:テレビ西日本

きょう
4:05~放送!

紙面について
●電話 03-6910-2201 (土日祝日除く) 9:30~17:30
●FAX 03-3595-6935
東京新聞ホームページ

TOKYO Web
www.tokyo-np.co.jp

本紙記者がツイッターでつぶやいています
東京新聞政治部
東京新聞けいざいデスク
東京新聞写真部
東京新聞鉄道クラブ
東京新聞文化部
東京ちゅん太(生活部)
東京レター(外報部)